

救急・災害医療の取り組み

本県の救急医療は、軽度の患者に
対する初期救急医療から緊急を要す
る救命救急医療まで、患者の重症度
などにより医療機関が連携して治療
に当たる体制になっています。

本県には、重篤な救急患者を24時
間いつでも受け入れることができる
救命救急センターが四つの病院に設
置されています。そのうち前橋赤十
字病院には、県内唯一の高度救命救
急センターが設置されています。
救命救急センターは、災害拠点病
院としての機能も併せ持ち、災害時
にDMATを派遣するなど、災害に
備えて積極的な役割を果たすことが
求められています。

救急・災害医療について



中村光伸さん

救急・災害医療について、県災害
医療サブコーディネーターも務める
前橋赤十字病院高度救命救急セン
ターの中村センター長に伺いました

「救急医療には、限られた時間
の中で、患者さんに最適な治療を
することが求められます。当セン
ターでは昨年度、救急搬送の患者
約7千人の治療に当たりました。
ドクターヘリは、現場に短時間
で到着し治療を開始できるため、
究極の往診システムとして現在の
救急医療に欠かせない存在です。」

県内の災害拠点病院

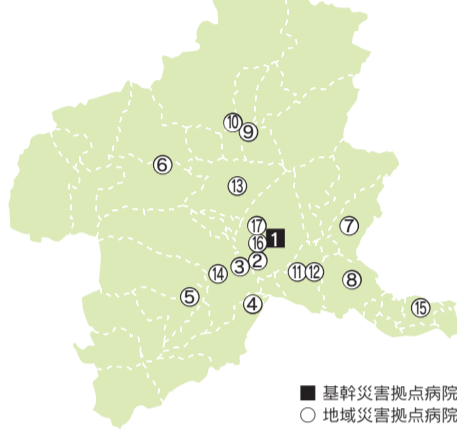


Table with 2 columns: Hospital Name (病院名) and Number. Lists 17 hospitals including Maebashi Red Cross Hospital, Gunma Prefecture Red Cross Hospital, and various general hospitals.

※災害拠点病院とは、災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関

災害拠点病院として

また災害医療では、救急医療の
経験や知識が生かされます。1月
に起きた本白根山の噴火ではDM
ATの出勤が要請され、ドクター
ヘリを活用して西吾妻福祉病院へ
医師を運んだり、負傷者を前橋市
内の病院へ搬送したりしました。
ドクターヘリの運航など、救急
医療の仕組みがしっかりできてい
るかどうかが、災害時の対応に大
きく影響すると考えています」

「前橋赤十字病院は県の基幹災
害拠点病院に指定され、災害時の
医療連携体制を考えた訓練を計
画したりする役割を担っています。
災害現場で必要な専門知識と技
術は、研修と訓練で補っていく必
要があります。一人でも多くの命
を救うために、災害医療研修を県
と一緒に積極的に行っていきたい
ですね」

DMAT(災害派遣医療チーム)

DMATとは大規模災害や多傷病
者が発生した事故などの現場で、急
性期から活動できる機動性を持ち、
専門的な訓練を受けた医療チームで
す。都道府県単位で組織され、医師
看護師、業務調整員(医師・看護師
以外の医療職および事務職員)で構
成します。

災害拠点病院を中心にDMATを
設置していて、現在県全体では最大
55隊を組織できます。5年後には64
隊まで増やすことを目標に研修や訓
練を行っています。



本白根山噴火のため西吾妻福祉病院に参集したDMAT

災害医療研修

県では、前橋赤十字病院をはじめ
とした各機関と協力し、災害医療に
関するさまざまな研修を行っています。
29年7月には、DMAT指定医
療機関や消防職員を対象に、DMAT
を新規養成する研修を開催しました。

また隊員の技能を向上させるため、
昨年度は群馬大学付属病院や鉄道会
社の訓練施設なども協力して、参
加対象や想定される災害の内容など
が異なる5回の研修を行い、合計2
01人が受講しました。

県立病院の役割

本県には専門分野(心疾患、がん、
精神医療、周産期を含む小児医療)
に特化した四つの県立病院があり、
それぞれが県内の中核を担う専門病
院として、高度な医療を提供してい
ます。

●心臓血管センター(前橋市)

本県の心疾患医療の中核として、
ハイブリッド手術室などを活用した
高度・専門医療を行っています。
また予防から治療、回復までを対
象にした心臓リハビリテーションを
実施しています。

●がんセンター(太田市)

地域がん診療連携拠点病院に指定
され、東毛地域のがん診療の拠点と
して地域医療に貢献しています。
今年3月に最新の3・0テスラの
MRI(磁気共鳴診断装置)を導入
し、より高画質な全身画像を一度の
撮影で得られるようになりました。

●精神医療センター(伊勢崎市)

本県における精神医療の基幹病院
として、入院治療から退院後の地域
生活支援まで一貫した治療・支援体
制を構築しています。
15年からは全国に先駆けて精神科
救急専門病棟を導入し、他の精神科
医療機関と連携した精神科救急シス
テムを支えています。

●小児医療センター(渋川市)

専門医と医療技術者によるチーム
医療体制をはじめ、PICU(小児
集中治療室)などの施設や高度医療
機器を整備し、難病・重症患者を受
け入れています。
また併設している総合周産期母子
医療センターは、県内の周産期医療
の中核的機能を担う他、リスクが懸
念される分娩にも対応しています。
緊急時には、保育器などの設備を備
えたNICU車(新生児専用搬送車)
により、新生児を治療しながら搬送
します。

県立病院の高度・専門医療への取
り組みについて、心臓血管センター
の内藤院長に伺いました



内藤滋人さん

高度・専門医療を追求

「県立病院の使命は、地域にお
いて必要とされる医療のうち、高
度な専門性や採算性などの面から
他の医療機関では提供が困難な医

療を安定的かつ継続的に提供する
ことです。
当センターでは、24時間体制で
専門の医師や医療スタッフが心疾
患の救命救急に取り組んでいます。
遠隔地からドクターヘリで搬送さ
れる救急患者も受け入れています。
また27年に導入したハイブリッ
ド手術室では、手術台と心血管工
具クス線撮影装置を併設し、カテ
ーテルを使用した内科的治療と切
開を伴う外科的治療を組み合わせ
た施術が行えるようになりました。
カテーテル治療中に状況によつ
て開胸手術に移行できるなど、医
療安全の面からも優れた高度な医
療の提供が可能になりました」